

お西さん

創刊号

2019.1

しゅぎょうちょうプレス

# 執行長PRESS



よりいそ本願寺へ。

毎日放送(MBS)アナウンサー

西 靖



西本願寺 執行長

武田 昭英

しゅぎょうちょう  
執行長カレー  
ができました。  
※2019年1月16日から  
「西洋酒樓 六堀」にて発売

創刊記念  
対×談

私たちの心は「縁」に  
触れればどうにでも  
変わっていく

文化財として素晴らしい本願寺ですが、ただ建物を見ていただくだけでは意味がありません。それをご縁として、仏法に触れていただきたい。仏教の心を感じとっていただける場所・本願寺でありたいのです。

これまでご縁のなかった方に  
仏法を伝えたい

**西** 執行の長と書き記して、「しゅぎょうちょう」と読むのですね。この役職というのは、どんなお仕事をされるのでしょうか？

**武田** 一般寺院であれば、住職がお寺のすべての事務に責任を持って管理していくわけですが、本願寺のように大きな組織になりますと、ご住職（ご門主）を中心に、護寺運営のため、多くの職員と共に寺務を推進していく。そのすべての責任者が執行長ということになります。

**西** つまり、おつとめ、布教、参

拝者対応、建物管理：諸々すべての責任者ということですね。

**武田** そんな感じでしょう。

**西** どういうことをされている時間が一番多いのですか？

**武田** おつとめに出たり、書類に目を通したり、色々な会議がありますので東京にも出張したり、といったようなことですか。

**西** きっと、日々やらなければならぬことがたくさんあって…

**武田** 今の宗教界は非常に厳しい状況の中にあります。浄土真宗本願寺派には全国に約一萬ものお寺がありますが、中には存続困難と言っている状況のお寺もあります。それは本

武田執行長のある日



5時30分	職員住宅から自転車で出勤
6時	晨朝勤行
7時30分	執行長室で朝食
8時45分	本願寺寺務所朝礼
10時	門前町の方々と面会
正午	執行長室で昼食
14時	会議(本願寺の新しい行事企画)
16時	境内清掃及び視察
その他の時間は自席で書類等に目を通す	
17時	退所

山である本願寺にも、影響が及ぶわけですが、まず本願寺がしっかりしなければいけない。そのためにはどうすればよいのか。今はそのことばかり、一所懸命に考えています。

**西** 地方ほど高齢化と人口減少が進んで、地域のお寺の継続が難しくなってきています。一方、都会に住んでいると、お寺との関係、つまり自分はどこのお寺の門徒なのか、普段はまるで意識せずにいます。自身の生活も残念ながら、何かあった時にお寺に、とはなっています。

そこを再構築なのか、もう一度関係を結び直すのか、どんなかたちがあり得るのでしょうかね。

**武田** 一般的にお寺は、拜んでご利益を求める、あるいは単純に先祖供養というイメージがもしもありません。

また、自分の心さえしっかりしていれば、何も仏さまや神さまの力を借りる必要はない、と多くの方が

思っているんじゃないでしょうか。ところが現実をみると、たとえば高齢者の犯罪が増えていたりする。何がいけないか、わかりきっているはずの年代の人たちです。

人間というのは、自分の心さえしっかりしていれば大丈夫と思っていられるけれど、人間の心ほどあてにならないものはない。そういうところに気づいてもらうことは、浄土真宗においても大事なことです。そのためにも、日頃から、時代にあった伝道活動の大切さを思います。

**西** 人々にとって、自分の心の支えとして宗教、信仰心というものが、必要だというふうには思えば、何かしらにすがると、頼ると、いうふうになるのでしょうか、今、執行長がおっしゃったように、私たちは「大丈夫だ」と思っている。お医者さんもあるし、大人だし、自制心もあるし、お寺がなくても大丈夫だと思っっている大人が多いのですよね。

**武田** 大半の人が、そうかもしれませんね。

**西** ああ、自分は未熟だ、とどんなときに感じるか、そしてそのときにどうやってお寺に気持ちに向かうか、ということですね。

**武田** 一般の人たちは、仏教にはふだんあまり縁が無いもので、だから、仏さまのお話を聴いて初めて、えっ、



**西 靖 (にし やすし)**

毎日放送 (MBS) のアナウンサーとして「VOICE」「ちんぷいぷい」など数多くの番組に出演。  
1971年岡山県生。

**武田 昭英 (たけだ しょうえい)**

2018年8月29日西本願寺執行長に就任。  
1944年広島県生。  
広島県府中町の龍仙寺前住職。

そんな世界があったのか、と気がつかれる。たとえば、ご法事でお話をすると、その話を聴いて、今までお寺にお参りをしたことがないような若い方が涙を流されたりする。今まで自分が考えていたようなことと違った世界に触れて、心が動くのではないのでしょうか。私たちの心というのは、縁に触ればどうにでも変わっていく、自分の心があてにならない、確かではない、本願寺に参拝してそんなことにも気づいてもらいたいですね。

**ただ観光で終わらない  
新しい寺院のかたち**

**西** 私の勝手なイメージなんですけれど、たとえば京都のお寺に多くの人が集まります。その方々は、信仰心というよりは、観光の気持で行っておられます。もちろん手を合わせ、お賽銭も入れるでしょうけれど、主たる目的は観光ですよ。

一方で、本願寺さんには、もっと生きた存在というか、現役感がありません。門徒さんの集まるところで、観光で行ってはいけない場所、みたいなイメージがあります。

今、執行長のおっしゃったことから、本願寺と繋がっている人を大切にしながら、観光でお寺を訪れる人や、興味を持って初めて訪れたよう

な人たちに、どのようにして宗教の重要性や必要性を伝えていくか、というお仕事かなと感じました。

**武田** おっしゃるとおりだと思います。素晴らしい文化財としての本願寺があり、それを求めてこられる方もたくさんいらっしゃいます。だけど、ただ建物を見てもらっただけでは意味がない、というのが私の思いで、それを縁として、本願寺では仏法に触れていただきたい。観光も含めて新しいかたちの寺院のあり方を探れないかと考えているのですが、これほど難しいこともない。

**西** 新しいかたちの寺院とは？

**武田** 観光だと思っただけで、そこに入ることによって、国宝なり重要文化財なりという価値に触れていただく。そして、何かの時には思い出して、そういえばあそこのお寺で観光と違った仏さまの心を何か聞いたようなという気がして、もう一度行ってみたいとか、お話を聴いてみたいとか、そういうふうな場所になれば、これは大きな一歩ですね。

**西** 何かこういうことを始めてみようとか、変えてみようというようなプランはあるのでしょうか。

**武田** 具体的なことに關しては、これからです。とりあえずは、国宝の飛雲閣とか、書院などの公開も考えながら、さまざまな施設や催し、

つながりを通して、本願寺が存在する由縁というものを、そして、仏教の心というか、そういう根っこを感じとっていただけるようにしたい。当面はまず、そこから始めないといけないかなと思っています。

**西** この『執行長 PRESS』もそういった発信、コミュニケーションの一環ということになるのでしょうか。紙面では、今後どんなことを発信していきたいとお考えですか？

**武田** 本願寺をもっと身近に感じていただければいいですね。こういう発信を通じて、本願寺が、街や、そこで暮らすみなさんに溶け込んでいけるような、そして、みなさんが本願寺にも溶け込んでもらえるような、自然な存在になっていければありがたいと思います。



国宝・西本願寺の御影堂 (手前) と阿彌陀堂 (奥)

